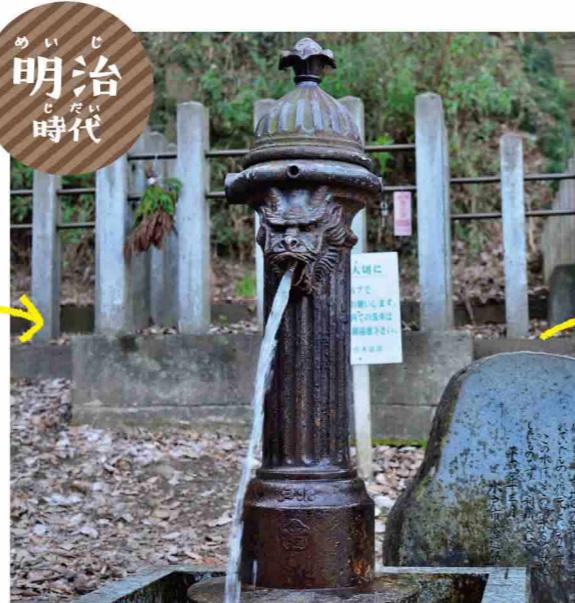


水の入手方法のうつりかわり



井戸のはじまり

地下を深くまで掘り、地下水をくみ上げる
しくみ。井戸からくんだ水は、家の中に運
び、大切に使いました。



水道が登場

まちにみんなで使う水道ができました。水
道の完成で伝染病が減りました。



水道が各家庭に

昭和初期から水道をひく家が増えはじめま
したが、ほぼすべての家で水道を使うよう
になったのは昭和後期のことです。



「水は買う」時代に

日本の水道水はとても安全ですが、平成時
代になると、ミネラルウォーターとよばれ
るおいしい飲み水を買う人が増えました。



重労働だった 水を運ぶ仕事

川や井戸から重い水を運ぶのは大変な
仕事でした。汚れた水を飲む人も多く、
コレラや赤痢などの伝染病がはやりま
した。水を運ぶのは、子どもの仕事にな
ることもありました。



水道の水は どこから来る?

私たちが使う水は、浄水場という施設から
水道を通って、送られます。浄水場では、川
の水を消毒し、きれいな水をつくっています。
世界で水道の水をそのまま飲めるのは、わ
ずか10か国ほど。浄水場のおかげで、日本
の水は安全なのです。

下水処理のうつりかわり

江戸時代
えどじだい



し尿は畑の肥料に

江戸時代、人々のうんちやおしっこ（し尿）は、こえだめという穴や大きな水がめに入れられ、畑の肥料に使われました。

昭和時代
しょうわじだい



バキュームカーが来る

各家庭のトイレにたまたまうんちやおしっこを、バキュームカーというトラックでくみ上げてまわっていました。

昭和時代
しょうわじだい



水洗トイレが広まる

便器に水道がつながった水洗トイレが広まり、それまでよりも安全で清潔になりました。

平成時代
へいせいじだい



快適なトイレのために

自動で水が流れたり、便座があたたかくなったり、節水機能がついたりと、トイレの性能はどんどんよくなってきています。



リサイクルされたうんちやおしっこ

農家ではくみ取ったし尿を畑の肥料にしていました。これはなんでもリサイクルする江戸時代の人の知恵です。し尿を畑にまくときは、おけやひしゃくのほかに、牛を使いました。牛は農業の大切な仲間だったのです。



提供：成田国際空港株式会社

トイレ環境が整った日本

日本は、世界中でもかなり下水処理が発達した国です。世界には、紙をトイレに流せない国も、水洗トイレではない国もあります。國中どこへ行っても、きれいなトイレがあるのは、めずらしいことなのです。

しょり ゴミ処理のうつりかわり



まとめ捨てていた時代

明治時代中期は、「塵芥箱」という木でできたふた付きのゴミ箱に、ゴミを捨てていました。



ゴミを燃やすように

昭和時代、戦争後にバケツや大八車を使って地域のゴミを集め焼却するようになりました。



埋められるゴミ

全国にゴミ処理場ができ、ゴミを燃やしたあとに残った灰や、燃やすこともリサイクルもできないゴミを埋めていました。



最新のゴミ処理施設

焼却炉の性能が高くなり、それまでは燃やせなかったゴミも燃やせるようになりました。

じゅうみん
住民をなやませた
ゴミの収集

昭和時代中期、それぞれの家のゴミを集める作業は、人が手車で行っていました。手車とは、木でできた人の手で動かす車のことです。手車にはハエや蚊がたくさん集まってしまうので、伝染病が広がる原因になりました。

せいけつ
清潔なくらしを守る
ゴミ収集車

現在では、ゴミ収集車が各地域をまわり、曜日ごとに決められたゴミを集めて処分場へ持っていきます。また、多くの人がゴミをできるだけ少なくするように工夫するようになりました。